

目 次

第2版はしがき
はしがき
凡 例

第 I 部 総 論

第 1 章 憲法総論・憲法史	2
1 憲法・憲法典・立憲主義——憲法研究序説	2
2 近代日本憲法史	4
第 2 章 国民主権・天皇制	18
1 神勅天皇制から国民主権へ	18
2 国民主権と象徴天皇制	24
第 3 章 平和主義	32
1 憲法9条の成立まで	32
2 憲法9条の解釈	34
3 9条2項解釈の歴史——「戦力」解釈の変化と憲法訴訟	36
4 「自衛権」解釈の変化——自衛力は、いつ行使できるのか	40
5 日本の軍事法制——日米安保と国際貢献	45

第Ⅱ部 統治機構

第4章	統治総論	52
	1 国民主権・代表政・権力分立	52
	2 代表政と選挙制度	66
	3 政党	71
第5章	国会と内閣	78
	1 議会・政府間関係	78
	2 国会	82
	3 内閣	99
	4 財政	111
第6章	司法	116
	1 司法権の射程	116
	2 裁判所の組織と権限	122
	3 司法権の独立	130
第7章	違憲審査制	136
	1 違憲審査権	136
	2 日本の違憲審査制の実施	139
	3 違憲審査と民主主義との関係	143
	4 違憲審査という制度	150
第8章	地方自治	154
	1 地方自治の意義と本旨	154

2	憲法上の地方公共団体	158
3	地方公共団体の組織	160
4	地方公共団体の権能	163
5	地方特別法	169

第Ⅲ部 基本的人権

第9章	人権総論・幸福追求権	172
1	人権総論——「人権」はどこまで認められるか	172
2	幸福追求権——「自由」はどこまで認められるか	188
第10章	法の下での平等	202
1	平等とは何か	202
2	憲法が保障する平等の範囲	207
3	判例の具体的展開	214
第11章	精神的自由1 思想および良心の自由・信教の自由	223
1	思想および良心の自由	223
2	信教の自由と政教分離原則	230
第12章	精神的自由2 表現の自由・学問の自由	244
1	表現の自由の価値と違憲審査	244
2	表現の自由の一般法理——規制類型に即して	246
3	表現の自由の特殊法理——報道機関の自由と大学の自治	262

第13章	経済的自由と労働権	270
1	社会の経済的成り立ちと人々の置かれた位置	270
2	財産権	272
3	職業選択の自由	278
4	居住・移転の自由、国籍離脱の自由	283
5	労働に関する権利	284
第14章	生存権と教育を受ける権利	294
1	生存権	294
2	教育を受ける権利	301
第15章	選挙権と投票価値の平等	309
1	選挙権	309
2	投票価値の平等	311
第16章	人身の自由と適正手続	318
1	はじめに——本章の射程	318
2	刑事裁判の前——捜査と逮捕	321
3	刑事裁判	325
4	刑事裁判の後——刑罰の執行、再審	327
5	行政手続における適正手続主義	329
6	冤罪、捜査・取調べの可視化、「刑事司法改革」	330
第17章	国務請求権	332
1	はじめに——国務請求権とは何か	332
2	裁判を受ける権利	333
3	国家賠償請求権	337

4 刑事補償請求権 338

5 請願権 339

第Ⅳ部 最高法規

第18章 グローバル化と憲法 342

1 「国家主権」の相対化 342

2 「国民国家」の相対化 347

3 「国民国家」への回帰? 354

第19章 憲法の最高法規性と憲法改正 360

1 憲法の最高法規性 360

2 憲法の保障 361

3 憲法の変動 366

4 立憲主義と憲法改正 375

判例索引

事項索引